東北地区研究会報告

松　岡　洋　子

東北地区で初めての地区研究会が、2012 年 9 月 23 日に岩手大学を会場に開催されました。会長の森住衛先生からの開会の挨拶に引き続き、前半は本会会長の森住衛氏の講演「日本の言語教育政策を問い直す --4 領域の言語教育政策をめぐって」と、松岡（岩手大学）の講演「人の移動する社会における共通言語－日独韓台の調査をもとに」が行われました。森住氏が講演の中で、これからの言語政策は統一性より多様性を理念に掲げるべきだと強調し、これに感銘を受けました。

次に、対談「東日本大震災における言語弱者への情報提供 -- 外国人移住者を中心に」が行われました。東日本大震災被災地からの声として、東北大学フェローの李善姫氏による被災地の結婚移住女性の情報提供に関わる課題について報告が行われ、それに対して木村哲也氏（帝京大学）がコメントする形で対談が進められました。李氏は社会学の立場で行った調査からの知見を述べましたが、言語政策と社会学という領域横断的な議論は今後も進められるべきだという認識が会場で共有されました。研究集会でこのような分野を超えた立場での議論が行われ、その意義が確認されたことは大きな収穫だと思われます。

第 3 部は、シンポジウム「言語・教育政策研究者の研究姿勢と社会的役割」が行われました。パネラーの仲谷信介（東京国際大学）は、日本語教員養成課程で起こりがちな母語話者規範の権力性について触れ 、それを打破する方向性について述べました。李守氏（昭和女子大学）は 60 年代のアメリカと現代の日本を対比し、言語研究者が果たすべき社会的役割について指摘しました。また、杉野俊子氏（工学院大学）からは、言語政策研究で軽視されがちな理論研究の重要性について具体的な枠組みを示しながら言及がありました。研究者が社会に対してどのような役割を果たせるのか、常に意識しながら研究を進めることの重要性を改めて考える機会となりました。

（岩手大学）